

病害虫発生予報 第6号（9月予報）	令和8年8月28日 岐阜県病害虫防除所
-------------------------------------	-----------------------------------

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	9月予報	
			発生時期	発生量
水稻	穂いもち	岐阜・西濃、中濃地域	平年並	少
		東濃地域		多
		飛騨地域		やや多
	ツマグロヨコバイ	岐阜・西濃、中濃地域	平年並	やや多
	トビイロウンカ	栽培地域全域	—	少
	斑点米カメムシ類	岐阜・西濃、中濃地域	平年並	平年並
大豆	カメムシ類	栽培地域全域	—	やや多
	ハスモンヨトウ	栽培地域全域	—	多
かき	ハマキムシ類	岐阜・西濃、中濃地域	やや早	やや多
なし	黒星病	岐阜・西濃、中濃地域	—	少
果樹共通	果樹カメムシ類	栽培地域全域	—	多
夏秋トマト	灰色かび病	中濃、東濃、飛騨地域	—	やや多
野菜一般	アブラムシ類	栽培地域全域	—	平年並
	ハスモンヨトウ	栽培地域全域	—	やや多
	タバコガ類	栽培地域全域	—	多
	アザミウマ類	栽培地域全域	—	やや少
施設野菜	コナジラミ類	岐阜・西濃地域	—	やや多

※発生時期の—は連続発生

【防除にあたっての注意事項等】

薬剤防除にあたっては、「病害虫・雑草防除指導指針」を参照するとともに、最新の農薬登録情報を確認し、使用基準を遵守してください。 外部リンク：農薬登録情報提供システム（農林水産省） https://pesticide.maff.go.jp/
--

【発生予報・根拠・注意事項等】

- I 普通作物
1 水稻

穂いもち	対象地域	発生時期 <最盛期>	発生量
	岐阜・西濃、中濃地域	平年並（9月第3半旬頃）	少
	東濃地域		多
	飛騨地域		やや多

- (1) 予報の根拠（発生量が多くなる要因を（+）、少くなる要因を（-）で表記）
 ア 中晩生種の出穂期は、平年並と予想される（±）。
 イ 穂いもちの発病ほ場率は、岐阜・西濃地域でやや低く（-）、中濃地域でやや高く（+）、東濃、飛騨地域で平年並みであった（±）。
 ウ 穂いもちの発病ほ場率は、岐阜・西濃、中濃地域で低く（-）、東濃、飛騨地域で高かった（+）。
 エ 向こう1ヶ月（8/22～9/21）の気象予報によれば、気温は高く（-）、降水量は平年並み～少ない（±～-）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 出穂期以降の多雨は、本病の発生を助長するので、葉いもち多発ほ場では特に注意する。
イ QoI 剤に対する耐性菌が確認されているため、薬剤の選択に注意する。
※ 病害虫図鑑「いもち病について」もあわせて参考にしてください。

ツマグロヨコバイ	対象地域	発生時期 <幼虫最盛期>	発生量
	岐阜・西濃、中濃地域	平年並（9月第2半旬頃）	やや多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯における誘殺数は、岐阜・西濃、中濃地域でともに多かった（+）。
イ ほ場での発生量は、すくい取り調査で岐阜・西濃、中濃地域ともに少なく（-）、払い落とし調査で岐阜・西濃地域は多く（+）、中濃地域はやや多かった（+）。
ウ 向こう1ヶ月（8/22～9/21）の気象予報によれば、気温は高く（+）、降水量は平年並み～少ない（±～+）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 地域による発生量の差が大きいので、発生状況に注意する。
※ 病害虫図鑑「水稻 ツマグロヨコバイについて」もあわせて参考にしてください。

トビイロウンカ	対象地域	発生量
	栽培地域全域	少

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯での誘殺は、認められていない（-）。
イ 8月下旬調査での発生は、認められていない（-）。
ウ 向こう1ヶ月（8/22～9/21）の気象予報によれば、気温は高く（+）、降水量は平年並み～少ない（±～+）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 今後の発生状況等について、「病害虫情報」等に注意する。
※ 病害虫図鑑「水稻 セジロウンカ・トビイロウンカについて」もあわせて参考にしてください。

斑点米カメムシ類	対象地域	発生時期 <最盛期>	発生量
	岐阜・西濃、中濃地域	平年並	平年並

(1) 予報の根拠

- ア 出穂期は、平年並と予想される（±）。
イ 予察灯での誘殺数は岐阜・西濃地域で少なく（-）、中濃地域でアカヒゲホソミドリカスミカメは平年並みであった（±）。
ウ 本田でのすくい取り調査で、トゲシラホシカメムシの捕獲数が多かった（+）。
エ 向こう1ヶ月（8/22～9/21）の気象予報によれば、気温は高く（+）、降水量は平年並み～少ない（±～+）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 散布剤による防除は、穂揃期及びその7～10日後の2回を基本とし、必要に応じて追加防除を実施する。
イ イネカメムシに対する防除適期は、他の斑点米カメムシ類より早く、散布剤は出穂期前後、粒剤では出穂5～10日前が防除適期となるため、前年の被害ほ場及びその近辺では防除時期に注意する。
※ 病害虫発生予察注意報第4号「水稻：斑点米カメムシ類」（令和8年7月22日）、病害虫図鑑「斑点米カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

2 大豆

カメムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯への初飛来は、岐阜・西濃地域で早かった（+）。
イ 予察灯における誘殺数は、岐阜・西濃地域で多かった（+）。
ウ ほ場での発生は、岐阜・西濃、東濃地域で認められていない（-）。

エ 向こう1ヶ月(8/22～9/21)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並み～少ない(±～+)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 雑草が多い地域や山間地など、地域、ほ場によって発生状況が異なるため注意する。

イ 播種が遅れたほ場については、防除時期に注意する。

※ 病害虫図鑑「大豆 カメムシ類について」もあわせて参考になしてください。

ハスモンヨトウ	対象地域	発生量
	栽培地域全域	多

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップにおける誘殺数は、岐阜・西濃地域で多かった(+)。

イ 白変葉の発生量は岐阜・西濃地域で多く(+)、東濃地域では認められていない(-)。

ウ 向こう1ヶ月(8/22～9/21)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並み～少ない(±～+)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除に重点を置く。

イ フェロモントラップを設置してモニタリングしているほ場では、今後の誘殺数に十分注意する。

※ 病害虫発生予察注意報第5号「大豆、野菜類、果樹類および花き類：ハスモンヨトウ」(令和8年7月29日)、病害虫図鑑「大豆 ハスモンヨトウについて」もあわせて参考になしてください。

II 果樹等作物

1 かき

ハマキムシ類	対象地域	発生時期<第4世代幼虫最盛期>	発生量
	岐阜・西濃、中濃地域	やや早(10月第2半旬頃)	やや多

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップにおける第2世代成虫の誘殺最盛期は、岐阜・西濃地域のチャノコカクモンハマキで早かった(+)。

イ 予察灯における第2世代成虫誘殺数は、岐阜・西濃地域でチャハマキ、チャノコカクモンハマキともに少なく(-)、中濃地域はチャハマキ、チャノコカクモンハマキともに多かった(+)。

ウ フェロモントラップにおける第2世代成虫誘殺数は、岐阜・西濃地域のチャノコカクモンハマキで平年並み(±)、中濃地域のチャハマキで少なかった(-)。

エ ほ場での第3世代幼虫被害果率は、岐阜・西濃地域で多かった(+)。

オ 向こう1ヶ月(8/22～9/21)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並み～少ない(±～+)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア ヘタ部やつづりあわせた葉内などに生息するため、薬剤防除はていねいに行う。

※ 病害虫図鑑「かき ハマキムシ類について」もあわせて参考になしてください。

2 なし

黒星病	対象地域	発生量
	岐阜・西濃、中濃地域	少

(1) 予報の根拠

ア 発病葉率は、全域で低かった(-)。

イ 発病果率は、全域で低かった(-)。

ウ 向こう1ヶ月(8/22～9/21)の気象予報によれば、気温は高く(-)、降水量は平年並み～少ない(±～-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 多発園では秋期防除を徹底し、次年度の伝染源の発生を抑制する。

※ 病害虫図鑑「なし 黒星病について」もあわせて参考になしてください。

3 果樹共通

果樹カメムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯における成虫誘殺数は、岐阜・西濃、中濃地域で多く（＋）、飛騨地域で平年並み（±）、東濃地域で少なかった（－）。
- イ フェロモントラップにおける誘殺数は、岐阜・西濃地域でやや少なく（－）、その他の地域では少なかった（－）。
- ウ 向こう１ヶ月（8/22～9/21）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並み～少ない（±～＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 気温、湿度が高く、風が弱い夜間に飛来が多くなるので注意する。
- ※ 病害虫発生予察注意報第6号「果樹：果樹カメムシ類」（令和8年8月24日）、病害虫図鑑「果樹カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

Ⅲ 野菜

1 夏秋トマト

灰色かび病	対象地域	発生量
	中濃、東濃、飛騨地域	やや多

(1) 予報の根拠

- ア 8月下旬調査で発病果は、全域で少ない（－）。
- イ 発病株率は、中濃、飛騨地域で高く（＋）、東濃地域で低かった（－）。
- ウ 向こう１ヶ月（8/22～9/21）の気象予報によれば、気温は高く（－）、降水量は平年並み～少ない（±～－）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤耐性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。
- ※ 病害虫図鑑「トマト 灰色かび病について」もあわせて参考にしてください。

2 野菜一般

アブラムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	平年並

(1) 予報の根拠

- ア 黄色水盤での誘殺数は、岐阜・西濃、飛騨地域で少なく（－）、中濃、東濃地域で平年並みであった（±）。
- イ ほ場での発生量は、ナス、トマトともに全地域で少なかった（－）。キャベツでは、岐阜・西濃地域で多く（＋）、ダイコンでは、中濃地域でやや少なく（－）、飛騨地域で少なかった（－）。
- ウ 向こう１ヶ月（8/22～9/21）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並み～少ない（±～＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。
- ※ 病害虫図鑑「ナス アブラムシ類について」もあわせて参考にしてください。

ハスモンヨトウ	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや多

(1) 予報の根拠

- ア フェロモントラップの誘殺数は岐阜・西濃、東濃地域では、少なく（－）、中濃、東濃地域で平年並みであった（±）。
- イ 岐阜・西濃地域のキャベツ、中濃地域のさといもで被害を確認している（＋）。
- ウ 向こう１ヶ月（8/22～9/21）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並み～少ない（±～＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除に重点を置く。

※ 病害虫発生予察注意報第5号「大豆、野菜類、果樹類および花き類：ハスモンヨトウ」（令和8年7月29日）、病害虫図鑑「野菜類 ハスモンヨトウについて」もあわせて参考にしてください。

タバコガ類 (野菜類)	対象地域	発生量
	栽培地域全域	多

(1) 予報の根拠

ア 野菜類のフェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数は、中濃地域で多く（＋）、飛騨地域でやや少なく（－）、東濃地域で平年並みであった（±）。タバコガの誘殺数は、東濃地域でやや多く（＋）、飛騨地域で多く（＋）、中濃地域で平年並みであった（±）。

イ 向こう1ヶ月（8/22～9/21）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並み～少ない（±～＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除に重点を置く。

※ 病害虫発生予察注意報第3号「野菜・花き類：オオタバコガ」（令和8年7月15日）病害虫図鑑「ナス タバコガ類について」もあわせて参考にしてください。

アザミウマ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや少

(1) 予報の根拠

ア ナスは場での発生は、全地域で少なかった（－）。トマトほ場での発生は、認められなかった（－）。

イ 向こう1ヶ月（8/22～9/21）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並み～少ない（±～＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

※ 病害虫図鑑「キュウリ ミナミキイロアザミウマについて」もあわせて参考にしてください。

3 施設野菜

コナジラミ類	対象地域	発生量
	岐阜・西濃地域	やや多

(1) 予報の根拠

ア トマト施設周辺に設置した黄色粘着板への誘殺数は、平年並みであった（±）。

イ 向こう1ヶ月（8/22～9/21）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並み～少ない（±～＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。

※ 病害虫図鑑「トマト コナジラミ類について」もあわせて参考にしてください。

[参考資料 1]

【各地域の病害虫発生調査結果および今後の予測】

※岐阜・西濃地域

作物名	病害虫名	8月発生量	9月発生予測	
			発生量	時期
水稻	穂いもち	少	少	並
	トビイロウンカ	少	並	—
	ツマグロヨコバイ	多	やや多	並
	斑点米カメムシ類	並	並	並
大豆	カメムシ類	並	やや多	—
	ハスモンヨトウ	多	多	—
かき	ハマキムシ類	並	やや多	早
なし	黒星病	少	少	—
果樹共通	果樹カメムシ類	多	多	—
野菜一般	アブラムシ類	少	並	—
	ハスモンヨトウ	少	並	並
	アザミウマ類	少	やや少	—
施設野菜	コナジラミ類	並	やや多	—

※圃場での見取り、予察灯、フェロモントラップ等により調査

● 水稻

・ ツマグロヨコバイ

海津市に設置した予察灯への7月第3半旬から8月第3半旬の誘殺数は6頭（平年1.7頭）と多く推移しました。これから出穂を迎えるほ場においては、穂への吸汁害を防ぐために、出穂前後の幼虫期に防除を行ってください。水田内では成幼虫が混在しているため、幼虫の比率が7～8割と見られる時期に防除を行ってください。

● 大豆

・ 吸実性カメムシ類

海津市に設置した予察灯への7月第1半旬から8月第3半旬の誘殺数は48頭（平年32.9頭）と多く推移しました。成虫は莢の伸長後期から子実肥大中期を最も好むことから、着莢期から子実肥大期の防除を確実に実施してください。

・ ハスモンヨトウ

海津市に設置したフェロモントラップ（以下PT）への7月第4半旬から8月第4半旬の誘殺数は1,871.8頭（平年577.2頭）と多く推移しました（図1）。PTによる誘殺ピークは平年9月～10月に見られることから、今後も発生量が増加し、被害が拡大する恐れがあります。白変葉の発生を確認したら、直ちに防除を実施してください。また、幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が低下するため、若齢幼虫の防除に重点をおいてください。

● 果樹共通

・ 果樹カメムシ類

岐阜市に設置した果樹カメムシ類の予察灯への8月第1半旬から第4半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシで7,676頭（平年1,354.8頭）、クサギカメムシで623頭（平年364.5頭）、ツヤアオカメムシは2,883頭（平年223.6頭）といずれにおいても多く推移しました（図2～4）。発生には地域差や園地差があるため、園内をよく観察し、飛来を確認したら防除を実施してください。園への飛来は夜温が25℃前後と高く、高湿度、風の弱い日に多くなる傾向があるため、天候に注意してください。

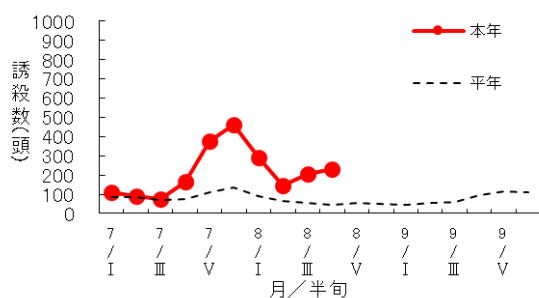


図1 PT*によるハスモンヨトウ誘殺数の推移
(海津市海津町平原)
*：フェロモントラップ

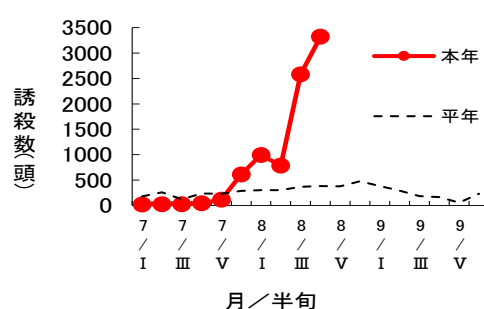


図2 予察灯によるチャハバカムシ誘殺数の推移
(岐阜市則松)

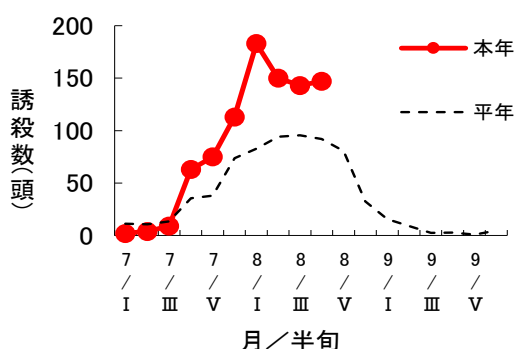


図3 予察灯によるクサギカメムシ誘殺数の推移
(岐阜市則松)

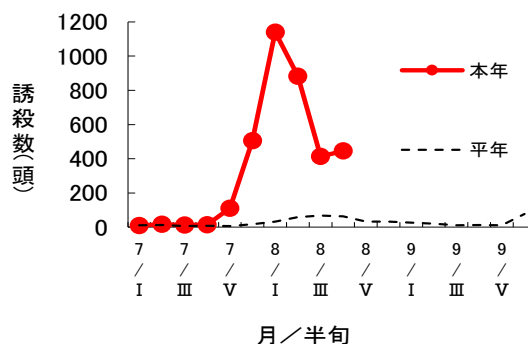


図4 予察灯によるツアハカムシ誘殺数の推移
(岐阜市則松)

※中濃地域

作物名	病害虫名	8月発生量	9月発生予測	
			発生量	時期
水稻	穂いもち	少	少	並
	トビイロウンカ	少	並	—
	ツマグロヨコバイ	多	やや多	やや早
	斑点米カメムシ類	並	並	並
大豆	カメムシ類	少	並	—
	ハスモンヨトウ	少	並	—
かき	ハマキムシ類	多	多	並
なし	黒星病	少	少	—
果樹共通	果樹カメムシ類	多	多	—
トマト	灰色かび病	やや多	やや多	—
野菜一般	アブラムシ類	並	並	—
	ハスモンヨトウ	並	やや多	—
	タバコガ類	多	多	—
	アザミウマ類	少	やや少	—

※圃場での見取り、予察灯、フェロモントラップ等により調査

● 水稻

・ 穂いもち

B L A S T A M (アメダスを利用した葉いもち発生予測システム)によると、8月中旬に中濃地域で感染好適条件が確認されています。葉いもちが上位葉に発生しているような場合は、穂いもちの発生が多くなるため、穂揃期までに予防的な防除を徹底してください。

・ツマグロヨコバイ

美濃加茂市に設置した予察灯への7月1半旬から8月第4半旬の累計誘殺数は181頭（平年21.4頭）と多く推移しました（図5）。これから出穂を迎えるほ場においては、穂への吸汁害を防ぐために、出穂前後の幼虫期に防除を行ってください。水田内では成幼虫が混在しているため、幼虫の比率が7～8割と見られる時期に防除を行ってください。

・斑点米カメムシ類

8月下旬に実施した調査では、本田内のすくい取り調査で本虫の発生が確認されています。また一部のほ場でイネカメムシの発生が確認されています。水稻の出穂直前および出穂後の畦畔除草は斑点米カメムシ類を水田内に追い込む恐れがあるため、出穂10日前までに実施してください。防除は出穂～穂揃期とおよびその7～10日後の2回実施してください。イネカメムシは、出穂前から飛来し、開花期以降に集中して加害するため、防除時期が早く、散布剤では出穂期前後、粒剤では出穂期の5～10日前に防除してください。

●かき

・ハマキムシ類

美濃加茂市に設置した予察灯へのチャノコカクモンハマキの8月第1半旬から第3半旬累計誘殺数は61頭（平年1.7頭）と多く認められています。産卵は葉裏などに魚のうろこ状に産み付けられ、ふ化幼虫は葉やヘタなどをつづりその内部で食害します。葉などをつづると薬液がかかりにくくなるため、ふ化期～若齢幼虫期に防除を実施してください。

●果樹共通

・果樹カメムシ類

美濃加茂市に設置した予察灯への誘殺数が増加しています（図6）。本虫の発生は地域差や園地差があるため、園内をよく観察し、飛来を確認したら防除を実施してください。園への飛来は夜温が25℃前後と高く、高湿度、風の弱い日に多くなる傾向があるため、天候に注意してください。

●野菜一般

・タバコガ類

可児市に設置したオオタバコガのフェロモントラップへの7月第4半旬から8月第3半旬誘殺数は289頭（平年166.0頭）と多く認められています。中齢以降の幼虫は薬剤が効きにくく、果実内に深く食入すると薬剤がかかりにくくなるため、若齢幼虫期に防除を実施してください。なお、薬剤散布の目安はほ場で卵がみられた約5～7日後になります。産卵は葉裏や蕾などに1卵ずつ行うためほ場をよく確認し、早期発見に努めてください。

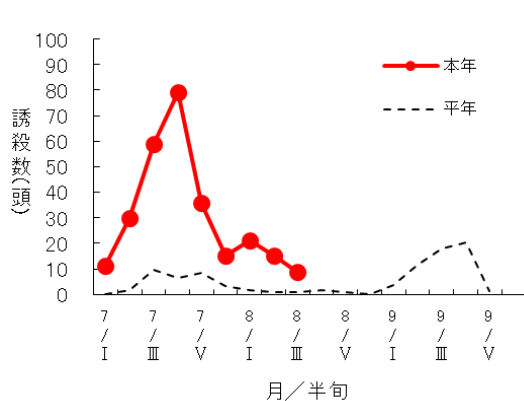


図5 予察灯によるツマグロヨコバイ誘殺数の推移（美濃加茂市）

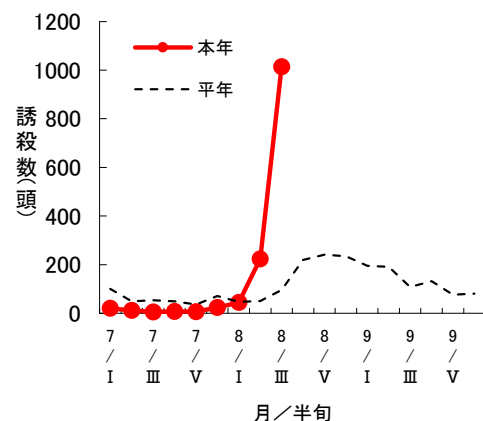


図6 予察灯によるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移（美濃加茂市）

※東濃地域

作物名	病害虫名	8月発生量	9月発生予測	
			発生量	時期
水稻	穂いもち	多	多	—
	トビイロウンカ	少	—	—
大豆	カメムシ類	—	並	並
	ハスモンヨトウ	少	並	—
果樹共通	果樹カメムシ類	少	並	—
トマト	灰色かび病	少	やや少	—
野菜一般	アブラムシ類	並	並	—
	ハスモンヨトウ	並	やや多	—
	タバコガ類	やや多	やや多	—
	アザミウマ類	少	やや少	—

※圃場での見取り、予察灯、フェロモントラップ等により調査

●果樹共通

・果樹カメムシ類

本虫の発生は地域差や園地差があるため、園内をよく観察し、飛来を確認したら防除を実施してください。園への飛来は夜温が25℃前後と高く、高湿度、風の弱い日に多くなる傾向があるため、天候に注意してください。

●野菜一般

・タバコガ類

恵那市に設置したタバコガのフェロモントラップへの7月第4半旬から8月第3半旬誘殺数は28頭（平年22.9頭）と多く認められています。中齢以降の幼虫は薬剤が効きにくく、果実内に深く食入すると薬剤がかかりにくくなるため、若齢幼虫期に防除を実施してください。なお、薬剤散布の目安はほ場で卵がみられた約5～7日後になります。産卵は葉裏や蕾などに1卵ずつ行うためほ場をよく確認し、早期発見に努めてください。

※飛騨地域

作物名	病害虫名	8月発生量	9月発生予測	
			発生量	時期
稲	穂いもち	やや多	やや多	やや早
	トビイロウンカ	少	並	—
果樹共通	カメムシ類	多	多	—
夏秋トマト	灰色かび病	やや多	並	—
野菜一般	アブラムシ類	—	やや少	やや早
	タバコガ類	やや多	多	早
	アザミウマ類	少	やや少	—

※圃場での見取り、予察灯、フェロモントラップ等により調査

●果樹共通

・果樹カメムシ類

クサギカメムシの予察灯誘殺数は7月第2半旬から8月第3半旬累計で2,013頭（平年1,164.9頭）と多く認められました（図7）。今後、夜温が25℃前後で風が弱く、温湿度が高い薄暮時（日没後1時間位）に活動が活発となります。近年は温暖化により、9月中旬を過ぎても発生が多いことがあるので注意して園内を観察し、必要に応じて防除を実施してください。

●夏秋トマト

・灰色かび病

8月下旬に実施した予察調査では、発病株が56%（平年26%）と多くみられました。本病は、20℃前後で多湿条件が続くと発病しやすくなります。発病した葉、果実は伝染源となるため早めに除去するとともに排水対策や換気、葉かき等でハウス内の風通しを良くし、

多湿とならないように注意してください。薬剤防除にあたっては、耐性菌の発現を避けるため、同一系統薬剤の連用は避け、系統の異なる薬剤でのローテーション防除に努めてください。

●野菜一般

・タバコガ類

下呂市に設置したタバコガのフェロモントラップへの7月第4半旬から8月第3半旬累計誘殺数は31.9頭（平年9.6頭）と多く認められています（図8）。薬剤散布の目安はほ場で卵がみられた約5～7日後になります。早期発見に努め、若齢幼虫期に散布ムラがないように丁寧な防除を心がけてください。また、タバコガ類は薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避けた防除を実施してください。

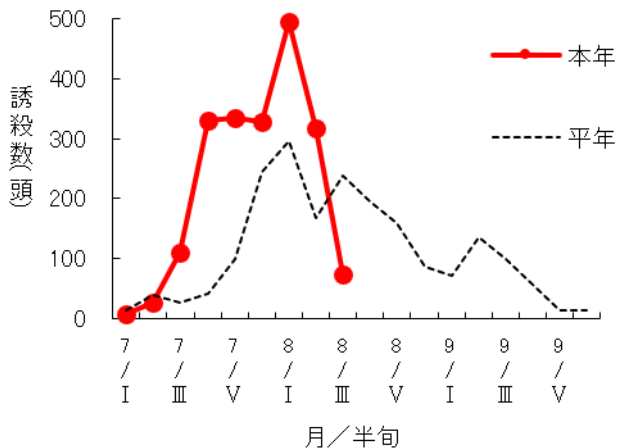


図7 予察灯によるクサギカメムシ誘殺数の推移（国府町）

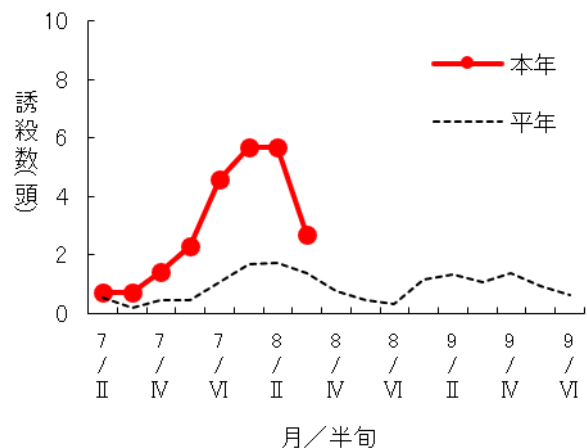


図8 フェロモントラップによるタバコガ誘殺数の推移（下呂市）

[参考資料2]

《用語の基準と使用法》

- 1 半旬 月の1～5日を第1半旬、6～10日を第2半旬と表す。
- 2 時期

平年並	平年値を中心として前後2日以内。
やや早い	平年値より3～5日早い。
やや遅い	平年値より3～5日遅い。
早い	平年値より6日以上早い。
遅い	平年値より6日以上遅い。
- 3 発生量

平年並	平年値を中心として、その値が±20%以内。
やや多い	平年値より、その値が21～40%多い。
やや少ない	平年値より、その値が21～40%少ない。
多い	平年値より、その値が41%以上多い。
少ない	平年値より、その値が41%以上少ない。
- 4 平年値 同一調査地点における過去10年間の値の平均値。

[参考資料3]

【東海地方1か月気象予報】（抜粋）一名古屋地方気象台 令和8年8月20日発表ー

《予想される向こう1か月の天候（8月22日から9月21日）》

暖かい空気に覆われるため、向こう1か月の気温は高く、期間の前半はかなり高くなる見込みです。高気圧に覆われるため、向こう1か月の降水量は平年並か少ないでしょう。

病虫害防除所ホームページに、病虫害発生予察調査データを公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2979.html>

主要な病虫害の防除上の注意事項等については、「病虫害図鑑」をご活用ください。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/12933.html>